

尿酸値が高いほど高血圧を発症しやすい可能性 ー日本の研究から

尿酸値の高値は心臓血管病のリスク増大と関連するとされているが、血清尿酸値が高血圧の発症にどのような影響を及ぼすのかはわかっていない。本研究では、血清尿酸値が高血圧の発症に及ぼす影響について、日本の男性会社員を対象に観察研究を実施し検討した。

2009年の試験開始時に高血圧のみられない18~64歳の男性会社員2,335例を対象に6年間追跡し、血清尿酸値と高血圧の発症について調べた。その結果、380例が高血圧を発症した。対象者の血清尿酸値により4群(5.1mg/dL以下、5.2-5.8mg/dL、5.9-6.6mg/dL、6.7mg/dL以上)に分けて高血圧の発症リスクを比較したところ、多変量で調整後も血清尿酸値が高いほど高血圧リスクは有意に高かった：最低四分位群(5.1mg/dL)と比べて第2、第3、最高四分位群のリスクは順に1.34倍、1.42倍、1.65倍であった。また、層化分析により、糖尿病も高コレステロール血症もない45歳以下の若年男性においても同様の関連が有意にみられた。

したがって、日本の男性会社員において、尿酸値が高い人は将来、高血圧を発症するリスクが高いことが示唆された。糖尿病も高コレステロール血症もない若い人でも同様の関連がみられた。

出典：Journal of Hypertension. 2018 May 08; doi: 10.1097/HJH.0000000000001743.